

2015年7月24日
株式会社日本政策金融公庫
中小企業事業本部
保険企画部

第185回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2015年4～6月期実績、2015年7～9月期見通し)

[概況] 信用保証利用企業の資金繰りは、横ばい状態である ～景況はやや改善している～

- 【金融関連】 ○ 資金繰りD. I. は、ほぼ横ばいで推移し、▲11.4となった。
- 借入難易感D. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲2.5となった。
- 今期(15年4～6月)に借入を実施した企業の割合は、ほぼ横ばいで推移。
- 【保証利用】 ○ 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、ほぼ横ばいで推移。
- 来期における保証利用要請D. I. は、ほぼ横ばいで推移。
- ※ 保証利用要請D. I. …金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。
- 【生産等】 ○ 生産・売上げD. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲9.7となった。
- 採算D. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲13.7となった。
- 【特別調査】 ○ 信用保証協会の利用メリット及び保証料の負担等について

<調査の要領> 調査時点 2015年6月中旬
調査対象 9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先
16,000企業を対象としており、**回答企業の約8割が従業員20人以下の小規模企業**となっています。

有効回答企業数 3,973企業
回答率 24.8%

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 Tel:03-3270-2384(担当:前田、宮本、角)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティノースタワー

本資料は日本銀行内金融記者クラブ、経済産業記者会に同時配布しております。

(1) 資金繰り

・資金繰りD.I. は、ほぼ横ばいで推移し、▲11.4となった。

		2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6	7-9
資金繰りD.I.	実績	▲12.5	▲12.8	▲14.1	▲12.0	▲11.4	
	見通し	▲15.7	▲10.4	▲11.0	▲11.3	▲10.5	▲8.1

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

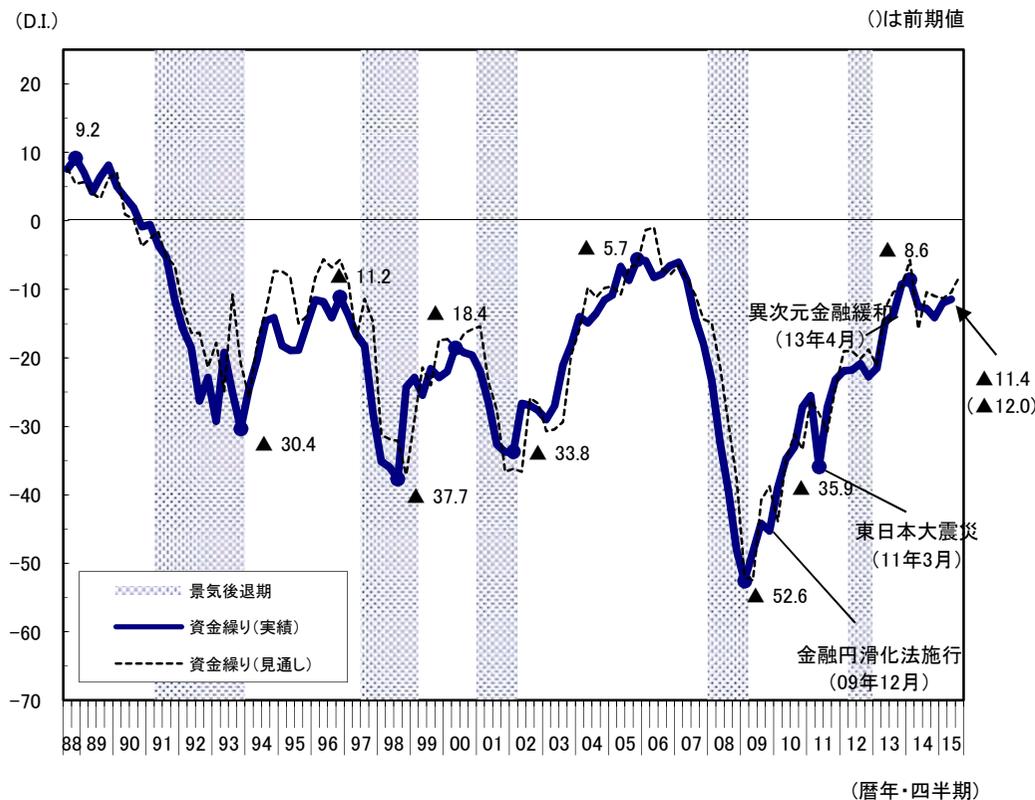
(2) 借入難易感

・借入難易感D.I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲2.5となった。

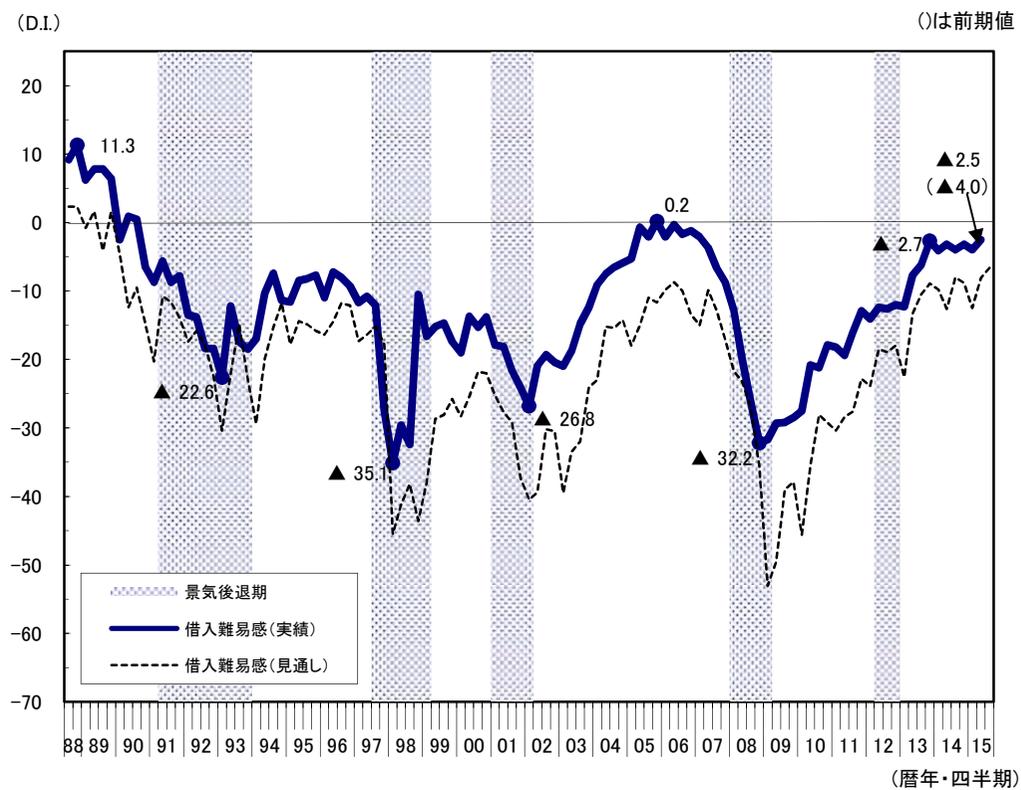
		2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6	7-9
借入難易感D.I.	実績	▲3.2	▲4.0	▲3.2	▲4.0	▲2.5	
	見通し	▲12.6	▲8.0	▲8.8	▲12.5	▲8.1	▲6.6

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

資金繰りD.I. (季節調整値)の推移



借入難易感D.I. の推移



(3) 借入れ状況

・今期(15年4~6月)に借入を実施した企業の割合は、ほぼ横ばいで推移している。

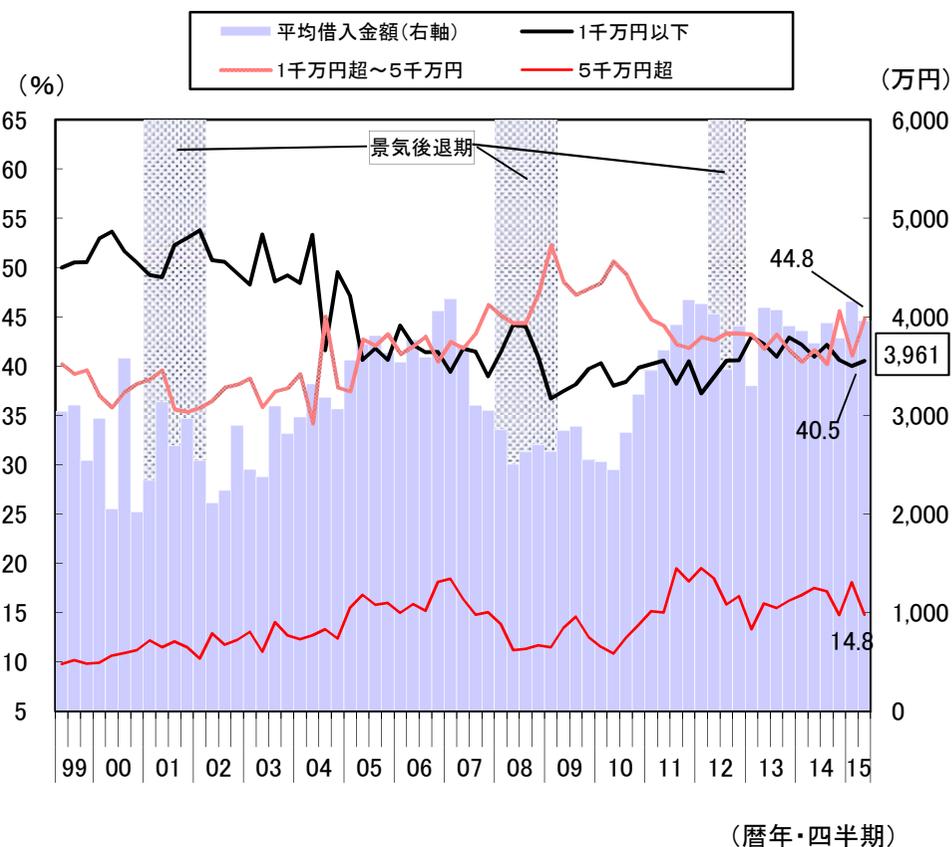
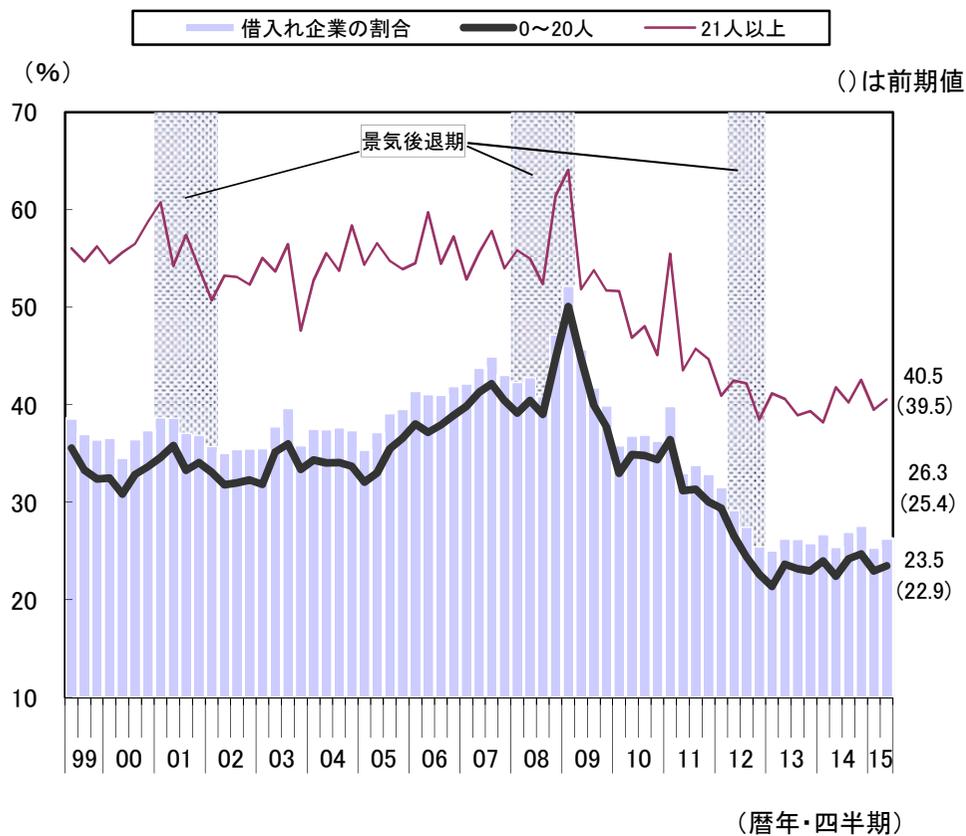
① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

	2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6
借入れ企業の割合	25.5	27.0	27.6	25.4	26.3
0-20人	22.4	24.2	24.7	22.9	23.5
21人以上	41.8	40.2	42.5	39.5	40.5

・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円超~5千万円」がやや増加、「5千万円超」がやや減少した。

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

	2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6
1千万円以下	40.9	42.2	40.6	40.0	40.5
1千万円超~5千万円	41.7	40.2	45.6	41.1	44.8
5千万円超	17.5	17.2	14.7	18.1	14.8



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

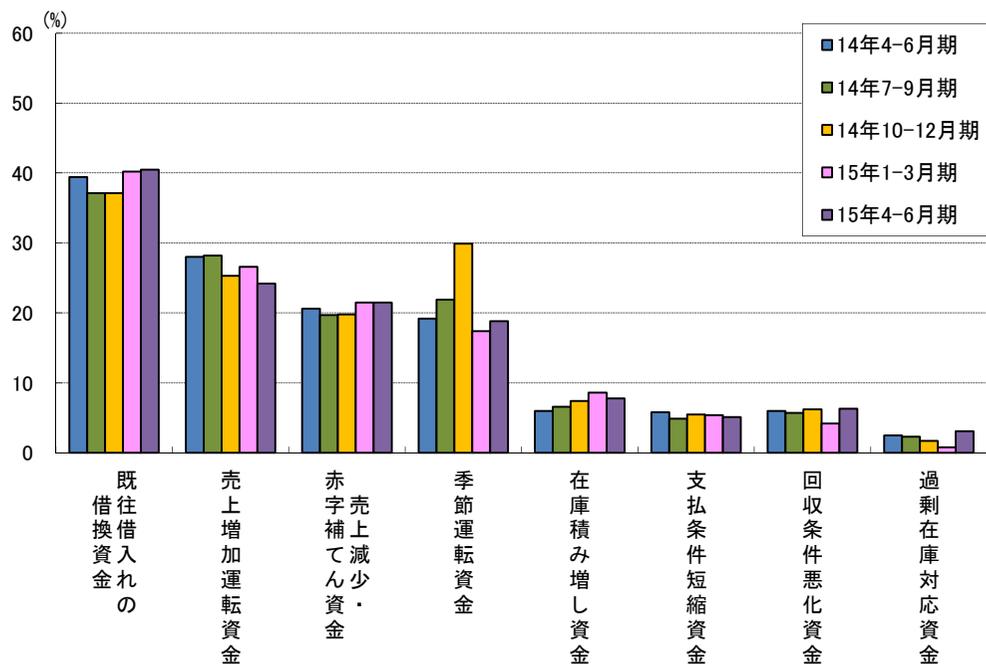
・資金使途については、運転資金及び設備資金ともにほぼ横ばいで推移している。
 設備資金は、13年4-6月期以降は8%前後と高水準で推移している。

③-1 資金使途の構成



③-2 運転資金の内訳

(原数値)		既往借入れの借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金
15年	4-6月期	40.5	24.2	21.5	18.8	7.8	5.1	6.3	3.1
	1-3月期	40.2	26.6	21.5	17.4	8.6	5.4	4.2	0.8
14年	10-12月期	37.1	25.3	19.8	29.9	7.4	5.5	6.2	1.7
	7-9月期	37.1	28.2	19.7	21.9	6.6	4.9	5.7	2.3
	4-6月期	39.4	28.0	20.6	19.2	6.0	5.8	6.0	2.5



(注) 1.複数回答のため、合計は100を超える。

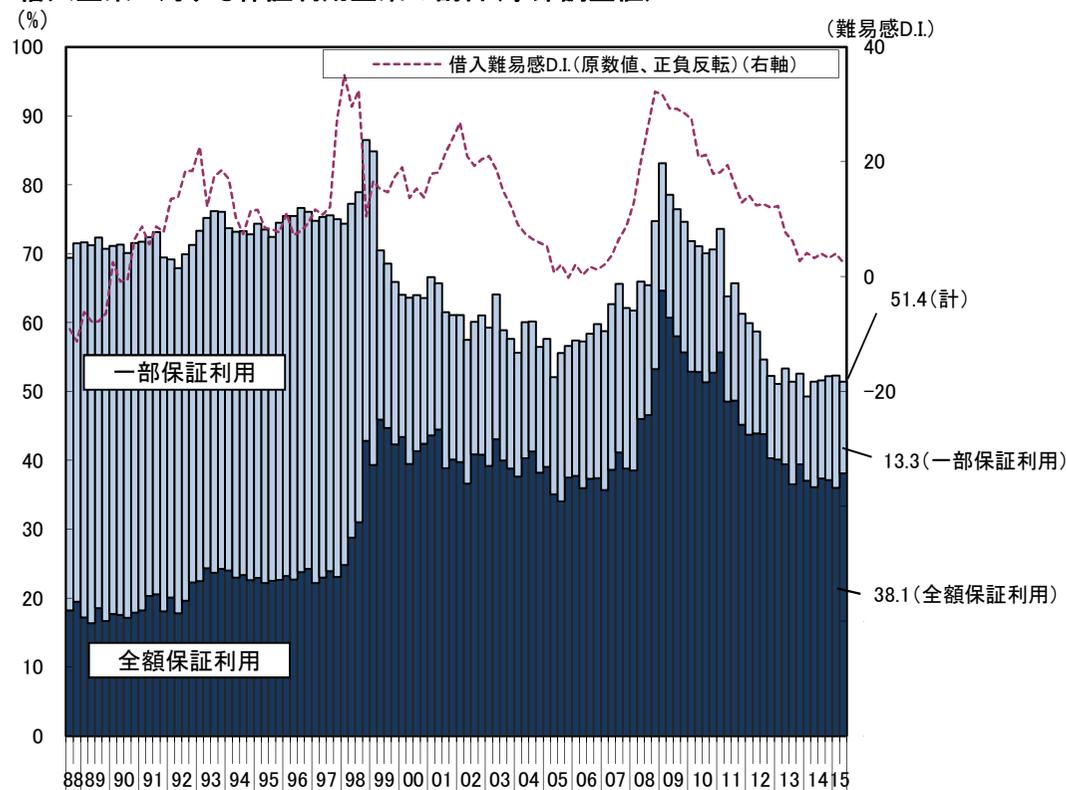
2.「資金使途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

(4) - 1 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、ほぼ横ばいで推移している。利用割合をみると、保証を全額利用した企業が、やや増加した。

	2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6
保証利用企業の割合	51.4	51.6	52.2	52.3	51.4
全額利用	36.1	37.4	37.1	36.0	38.1
一部利用	15.3	14.2	15.1	16.3	13.3
プロパーのみ利用企業の割合	48.6	48.4	47.8	47.7	48.6

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(暦年・四半期)

(4) - 2 金融機関からの保証利用要請

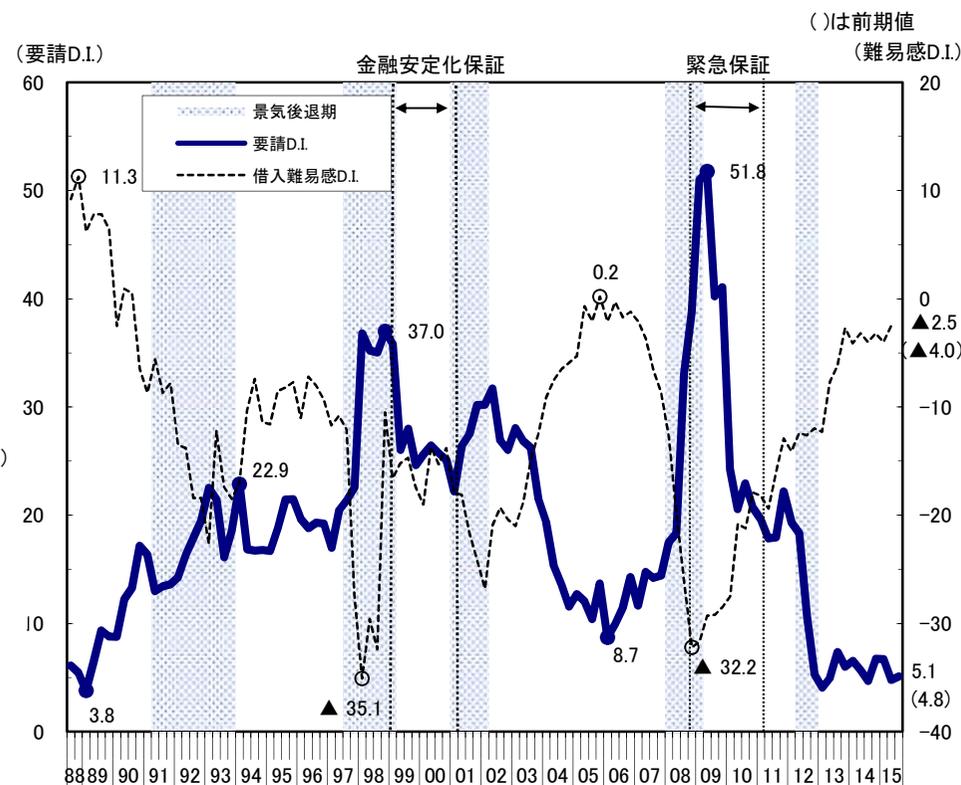
・来期(15年7~9月期)における保証利用要請D. I. は、ほぼ横ばいで推移している。

	2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6	7-9
要請D.I. 見通し	5.7	4.7	6.8	6.7	4.8	5.1
借入難易感D.I. 実績	▲3.2	▲4.0	▲3.2	▲4.0	▲2.5	

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。

2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D. I. (季節調整値)及び借入難易感D. I. の推移



(暦年・四半期)

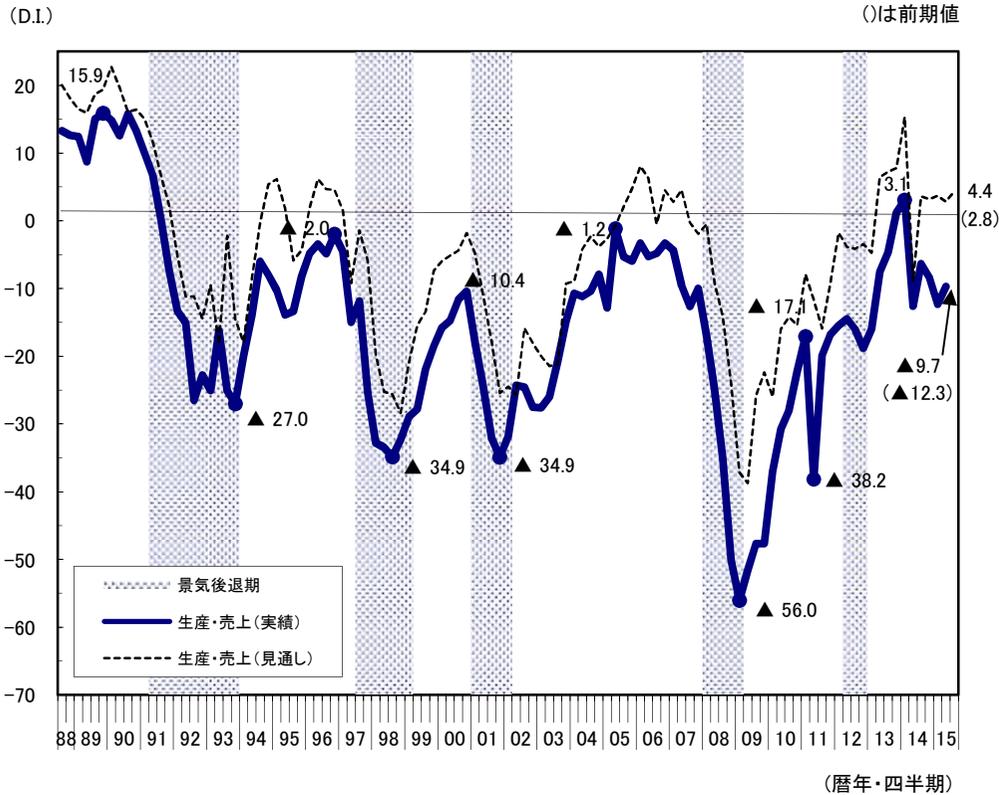
(5) 生産・売上げ

・生産・売上げD.I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲9.7となった。

		2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6	7-9
生産・売上げD.I.	実績	▲12.6	▲6.3	▲8.4	▲12.3	▲9.7	
	見通し	▲9.0	3.6	3.2	3.7	2.8	4.4

(注) 前期比。生産・売上げD.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

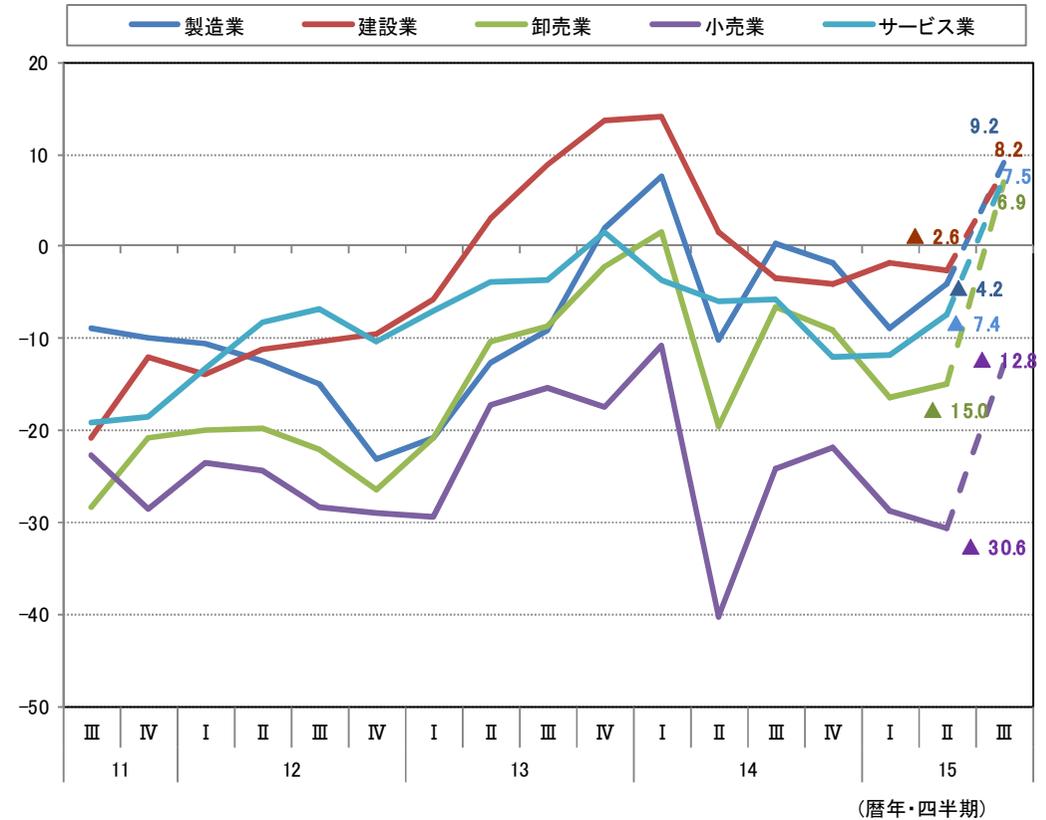
生産・売上げD.I. (季節調整値)の推移



(参考)

・生産・売上D.I.(業種別)は、製造業及びサービス業でマイナス幅がやや縮小したものの、小売業はマイナス幅がやや拡大した。

業種別生産・売上げD.I. (季節調整値)の推移



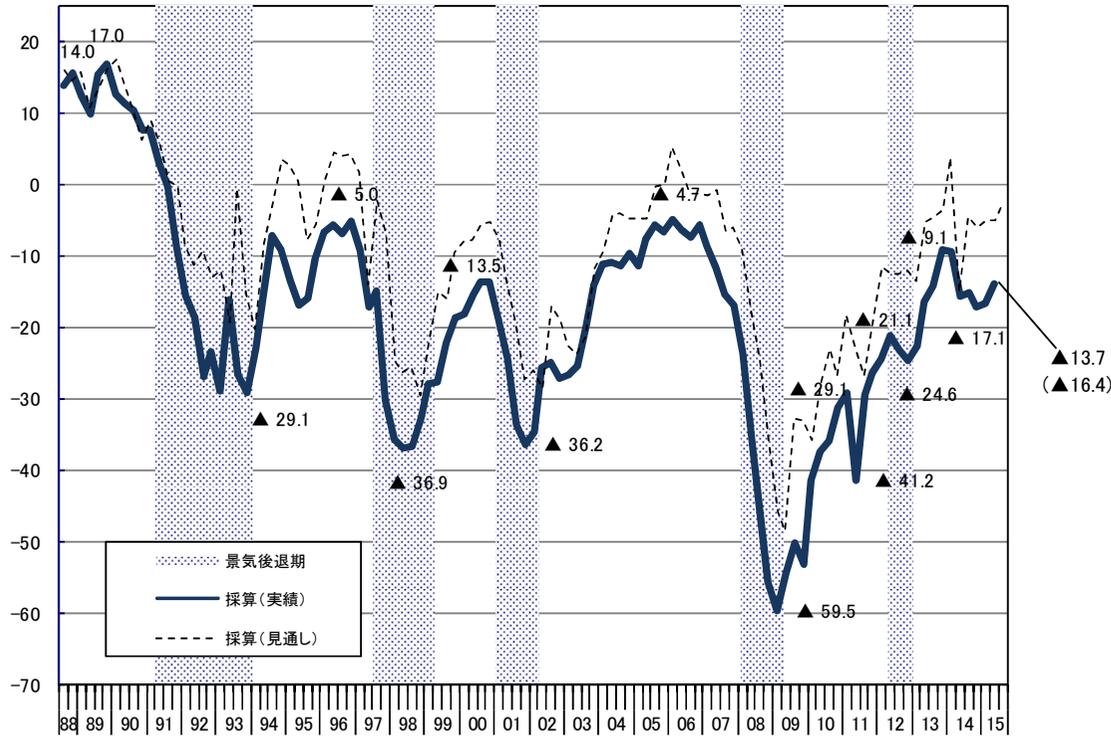
(6) 収益

・採算D.I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲13.7となった。

		2014/4-6	7-9	10-12	2015/1-3	4-6	7-9
採算D.I.	実績	▲15.5	▲15.0	▲17.1	▲16.4	▲13.7	
	見通し	▲14.9	▲4.5	▲5.8	▲5.0	▲4.9	▲2.7

(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

()は前期値

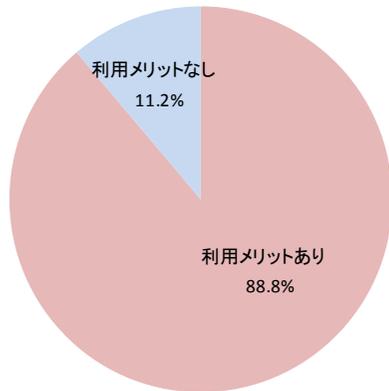


特別調査

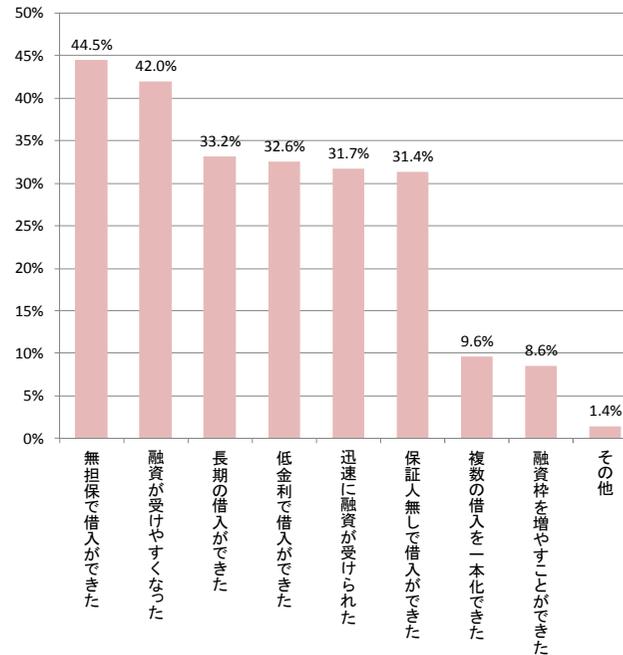
1. 信用保証協会の利用メリット及び保証料の負担について

- ・ 信用保証協会を利用した企業の約9割(88.8%)がメリットを感じている。
- ・ 信用保証協会を利用した際のメリットの上位3項目は、①「無担保で借入ができた」(構成比44.5%)、②「融資が受けやすくなった」(同42.0%)、③「長期の借入ができた」(同33.2%)となっている。4位以下の項目である低金利、迅速対応、保証人徴求緩和を含め、信用保証協会の保証を利用することにより有利な条件で資金調達が可能となったことが評価されている。
- ・ 一方で、保証料の負担感については、保証料が「高い」と回答した企業の割合が61.4%と最も多く、次いで「妥当」が24.0%、「特に保証料を意識していない」が8.6%と続いている。なお、信用保証協会を利用した際にメリットを感じていない企業では、保証料が「高い」と回答している企業の割合が、メリットを感じている企業に比べて高くなっている。

(1) 信用保証協会の利用メリット



(2) 信用保証協会を利用した際に感じたメリット



(注)複数回答のため、合計は100%を超える。

(3) 保証料の負担感

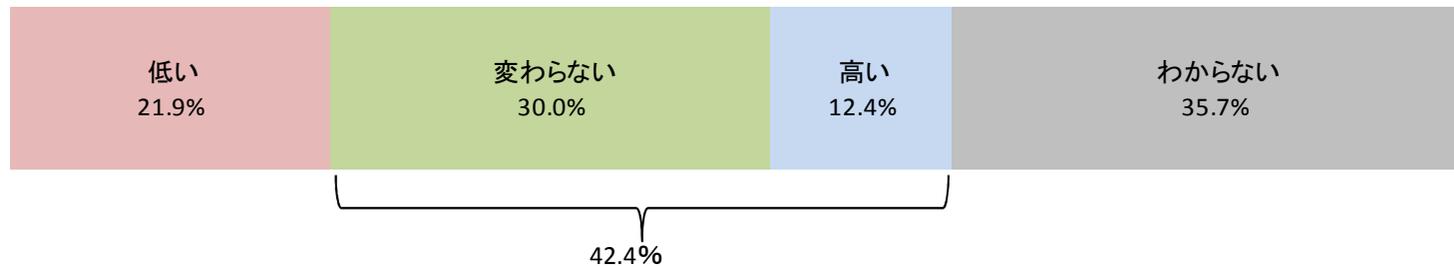


2. 信用保証協会を利用した際の借入金利、保証料率の適用区分等の認識について

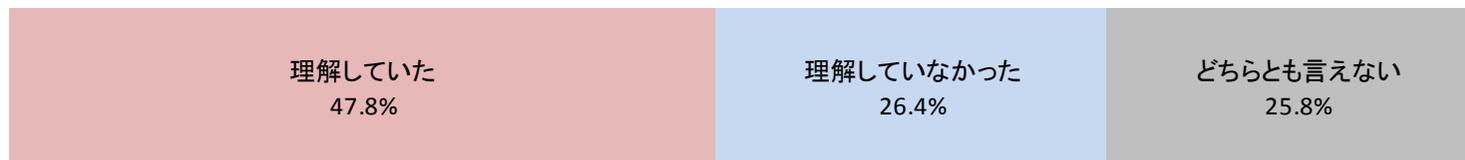
- ・ 信用保証協会を利用した際の借入金利が、信用保証協会を利用せずに借入した場合に比べて「低い」と回答した企業は21.9%にとどまっている一方で、「変わらない」(構成比30.0%)と「高い」(同12.4%)の合計は4割を超えており、中小企業・小規模事業者が信用保証協会を利用した場合であっても、金融機関は貸出金利を引き下げていないといった回答結果となっている。
- ・ 自社の保証料率の適用区分や保証料の支払方法については、約半数(47.8%)の企業が「理解していた」と回答しているが、約1/4(26.4%)は「理解していなかった」と回答している。

※現在、保証料率は一部の保証制度を除き、中小企業者の経営状況(決算内容)等を踏まえた9区分の料率体系となっている。

(1) 信用保証協会を利用した際の借入金利 (信用保証協会を利用せずに借入した場合との比較)



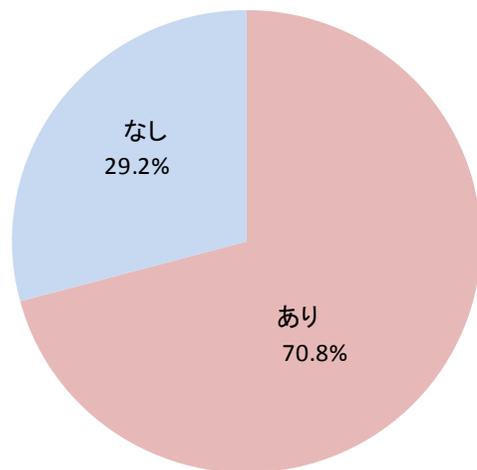
(2) 保証料率の適用区分及び保証料の支払方法



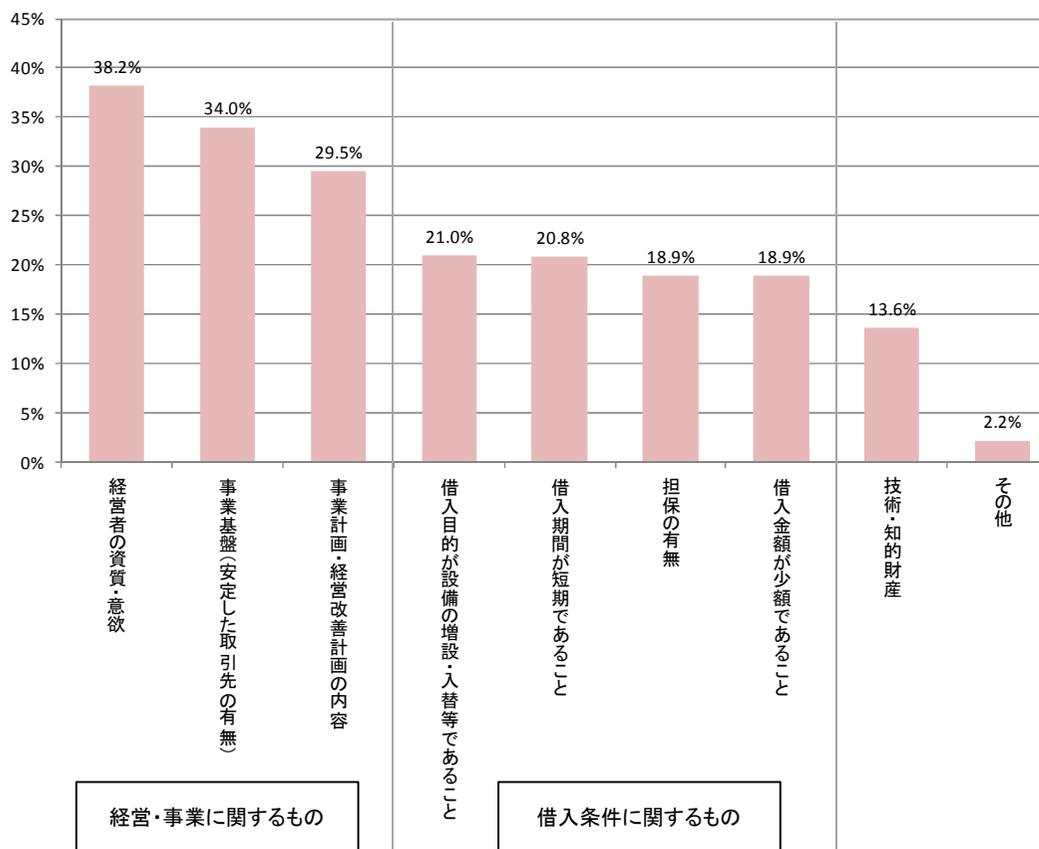
3. 保証料を算定する際に評価・考慮してほしい項目について

- ・保証料を算定する際に自社の決算内容以外に評価・考慮してほしい項目があると回答した企業は70.8%。
- ・具体的に評価・考慮してほしい項目としては、「経営者の資質・意欲」(構成比38.2%)が最も多く、次いで「事業基盤(安定した取引先の有無)」(同34.0%)、「事業計画・経営改善計画の内容」(同29.5%)が続いている。保証料の算定にあたっては、自社の経営や事業内容に関する項目を重視してほしいという要望が多くなっている。

(1) 保証料を算定する際に評価・考慮してほしい項目の有無



(2) 保証料を算定する際に評価・考慮してほしい項目



(注)複数回答のため、合計は100%を超える。